



# オレゴン縦型薪割機

MODEL No. OR25TBS-1



## 取扱説明書



薪割機をご使用になる前に、必ず取扱説明書を良くお読みください。

※ 仕様、形状は予告なく変更することがあります。

<b>1</b>	<b>はじめに</b> .....	<b>3</b>
<b>2</b>	<b>各部の名称</b> .....	<b>4</b>
<b>3</b>	<b>警告表示マーク</b> .....	<b>5</b>
<b>4</b>	<b>使用ステッカー</b> .....	<b>6</b>
<b>5</b>	<b>仕様</b> .....	<b>8</b>
5-1	油圧オイルについて.....	9
5-2	エンジンオイルについて.....	9
5-3	牽引について.....	9
<b>6</b>	<b>使用上の注意事項</b> .....	<b>9</b>
6-1	基本的注意.....	9
6-2	作業前の注意.....	10
6-3	作業中の注意.....	11
6-4	作業後の注意.....	12
<b>7</b>	<b>組立</b> .....	<b>14</b>
7-1	必要な工具.....	14
7-2	箱の開封.....	14
7-3	本機内容.....	15
7-4	タイヤの取付.....	17
7-5	タンク Asy の取り付け.....	19
7-6	ビーム Asy の取り付け.....	20
7-7	ビームロックの取り付け.....	22
7-8	エンジンの取り付け.....	24
7-9	オイルホースの接続.....	25
7-10	マニュアルキャニスターの取り付け.....	29
7-11	ログキャッチャーの取り付け.....	28
<b>8</b>	<b>運転の前に</b> .....	<b>30</b>
8-1	油圧油圧オイルの給油について.....	31
8-2	エンジンオイルの給油について.....	31
8-3	燃料タンクへの給油.....	32
<b>9</b>	<b>エンジンの始動と停止</b> .....	<b>32</b>
9-1	エンジンの始動方法.....	32
9-2	停止.....	33
9-3	エンジンの試運転.....	33
<b>10</b>	<b>ログスプリッターの試運転</b> .....	<b>33</b>
<b>11</b>	<b>薪割り作業</b> .....	<b>34</b>
11-1	薪について.....	34
11-2	実際の薪割りの操作の前に.....	34
11-3	ログスプリッターの設置と準備.....	35
11-4	ログスプリッターの操作-水平位置.....	36
11-5	ログスプリッターの操作-垂直位置.....	38
<b>12</b>	<b>メンテナンス</b> .....	<b>40</b>
12-1	油圧オイルフィルターの変換.....	40
12-2	油圧オイルの補充.....	40
12-3	油圧オイルの変換.....	40
12-4	ブリーザーキャップの清掃.....	41
12-5	エアクリーナーの清掃.....	41
12-6	斧の研磨.....	41
<b>13</b>	<b>トラブルシューティング</b> .....	<b>42</b>
13-1	薪が斧から外れないとき.....	42
13-2	トラブルシューティング.....	42

# 1 はじめに

このたびは、オレゴン薪割機をお買い上げいただき誠にありがとうございます。  
この取扱説明書は日常お使いいただく薪割機の性能をいつでも最大限に活用し、正しい能率的な作業を進めていただくため、必要な取り扱い操作の手順や点検、手入れの方法などをまとめてあります。

(株)新宮商行の方針は、常により優れた製品を市場に供給するために、絶えず設計、製造、技術の改良を続けることです。従って仕様、装備、色、デザインと価格を予告無しに変更する事があります。又、(株)新宮商行は、すでに出荷済みの本機に対して、あらかじめ通知や改良品の供給をすること無しに、そのような変更を行なう権利を留保します。

- ★ 機械寿命を高めるため、シングウ専用品、指定品をお使いください。
- ★ 部品交換をするときには、シングウ純正品を使い、正しく修理してください。
- ★ 故障したとき(又は定期整備時)は薪割機販売店へご用命ください。
- ★ 不明な点は、御気軽にいつでも薪割機販売店へおたずねください。

すべての安全規則を守ること！

◇ この取扱説明書に記載されている危険、警告、及び注意事項をよく読み、確実に理解してください。

文中の危険、▲警告、△注意は安全上及び取扱い上特に重要な部分ですので、必ず守ってください。

**▲危険：取扱い上、極めて危険な事項についての説明です。**

ここに説明された事項については、間違った取扱いをしますと  
重傷や死亡事故の原因にもなりますので必ず守ってください。

**▲警告：特に重要な取扱い上の警告事項です。**

ここに説明された事項については、間違った取扱いをしますと  
重大な事故や負傷の原因にもなりますので必ず守ってください。

**△注意：正しい操作のための注意事項です。**

ここに説明された事項については、間違った取扱いをしますと  
事故や機械の故障の原因にもなりますので必ず守ってください。

## 2 各部の名称

ビームを寝せた  
状態→













←ビームを立てた状態



### 3 警告表示マーク




◇ 説明をわかりやすくするため、薪割機、取扱説明書には下記のようなマークを使用しています。

	薪割機をご使用になる前に、必ず取扱説明書を良くお読みください。
	作業時には、滑り止めのついた丈夫な安全靴を必ず着用してください。
	作業時には、保護手袋を必ず着用してください。 斧を研磨する時は、保護手袋を必ず着用してください。
	作業時には、保護メガネを必ず着用してください。
	薪割機が動いている間は、稼動部に手を触れてはいけません。又、保護カバーを外してはいけません。
	薪割機が動いている間は、点検、整備、清掃等を行なってはいけません。必ずエンジンを停止してから行ってください。
	薪割機の近くで煙草を吸ってはいけません。 作業時、給油時、整備点検時は禁煙です。
	作業は必ず一人で行なってください。作業員から半径5m以内に人やペットを入れてはいけません。又、運転中の薪割機のそばを離れてはいけません。
	オイル漏れがあった場合は、薪割機を運転してはいけません。
	作業時には、薪及び斧とプレートの中に手を入れてはいけません。作業時には斧の動きに十分注意を払うこと。

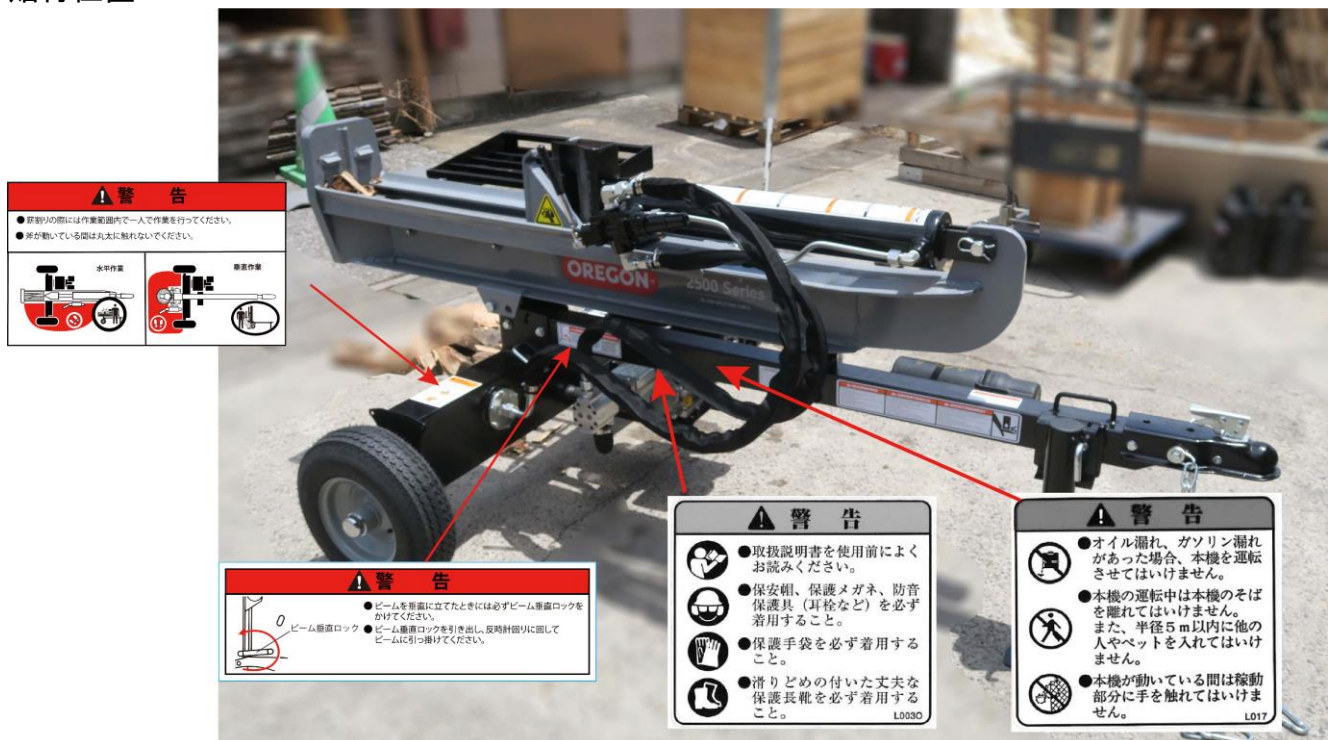
## 4 使用ステッカー


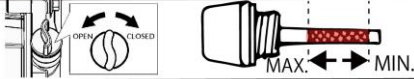

本機には下記のステッカーが同梱されております。  
安全のため必ず下記の通り指定の場所に貼り付けてください。

<p><b>警告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●取扱説明書を使用前によくお読みください。</li> <li>●保安帽、保護メガネ、防音保護具（耳栓など）を必ず着用すること。</li> <li>●保護手袋を必ず着用すること。</li> <li>●滑りどめの付いた丈夫な保護長靴を必ず着用すること。</li> </ul> <p>L0030</p>	<p><b>警告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●オイル漏れ、ガソリン漏れがあった場合、本機を運転させてはいけません。</li> <li>●本機の運転中は本機のそばを離れてはいけません。また、半径5 m以内に他の人やペットを入れてはいけません。</li> <li>●本機が動いている間は稼働部分に手を触れてはいけません。</li> </ul> <p>L017</p>
取扱説明書と保護具ラベル	基本警告ラベル

<p><b>警告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●新割りの際には作業範囲内で一人で作業を行ってください。</li> <li>●斧が動いている間は丸太に触れないでください。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>水平作業</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>垂直作業</p>  </div> </div>	<p><b>警告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ビームを垂直に立てたときには必ずビーム垂直ロックをかけてください。</li> <li>●ビーム垂直ロックを引き出し、反時計回りに回してビームに引っ掛けてください。</li> </ul>  <p>ビーム垂直ロック</p>
作業範囲ラベル	ビーム垂直ロックラベル


### 貼付位置



<p style="text-align: center;"><b>警告</b></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新品時には<b>必ず油圧オイル</b>を給油してください。</li> <li>● 油圧オイルは必ずオイルゲージで確認しながら給油してください。 油圧オイルが多すぎても少なすぎても故障の原因となります。</li> <li>● 油圧オイルは油圧作動油(粘度温度特性向上)の32番手をご使用ください。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>警告</b></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新品時にはエンジンオイルは入っておりません。<b>必ずエンジンオイル</b>を給油してください。</li> <li>● エンジンオイルは必ずオイルゲージで確認しながら給油してください。 エンジンオイルが多すぎても少なすぎても故障の原因となります。</li> <li>● エンジンオイルは5W-30をご使用ください。</li> </ul>
<p>油圧オイルゲージラベル</p> <p style="text-align: center;"><b>警告</b></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● ガソリンは火災ややけどを引き起こす可能性があります。</li> <li>● 燃料タンクにガソリンを入れる前にはエンジンを停止して、高温になっていないことを確認してください。</li> <li>● 燃料の膨張に備えて、給油するときは給油口いっぱいには入れず、燃料タンクの上から16mm程度の余裕をもたせてください。</li> </ul> <p>燃料タンク給油ラベル</p>	<p>エンジンオイルゲージラベル</p>

### 貼付位置

**警告**



- 新品時にはエンジンオイルは入っておりません。**必ずエンジンオイル**を給油してください。
- エンジンオイルは必ずオイルゲージで確認しながら給油してください。  
エンジンオイルが多すぎても少なすぎても故障の原因となります。
- エンジンオイルは5W-30をご使用ください。


**警告**



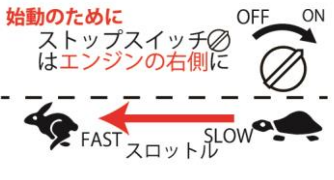
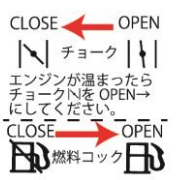
- 新品時には**必ず油圧オイル**を給油してください。
- 油圧オイルは必ずオイルゲージで確認しながら給油してください。  
油圧オイルが多すぎても少なすぎても故障の原因となります。
- 油圧オイルは油圧作動油(粘度温度特性向上)の32番手をご使用ください。



**警告**



- ガソリンは火災ややけどを引き起こす可能性があります。
- 燃料タンクにガソリンを入れる前にはエンジンを停止して、高温になっていないことを確認してください。
- 燃料の膨張に備えて、給油するときは給油口いっぱいには入れず、燃料タンクの上から16mm程度の余裕をもたせてください。

<p>始動のために ストップスイッチの はエンジンの右側に</p> 		<p>CLOSE ← OPEN N チョーク     エンジンを温まったら チョークNをOPEN→ にしてください。 CLOSE → OPEN 燃料コック</p> 
始動のために1	始動のために2	

### 貼付位置



## 5 仕様

		オレゴン OR25TBS-1
長さ×幅×高さ	水平(ビームを倒した状態 ※1)	230cm×123cm×95cm
	垂直(ビームを立てた状態 ※2)	214cm×123cm×180cm
最大処理長		64cm(25.5")
破砕力		25t(米トン)
油圧オイル量		17リットル(4.5米ガロン)
サイクルタイム		11.2秒
動力		B&S ガソリンエンジン CR950 208cc
エンジンオイル容量		470~590cc(16~20 オンス)
燃料タンク容量		3リットル(0.8米国ガロン)
エンジンスタート		リコイルスターター
スパークプラグ		RC12YC

※1:高さは斧(刃)の上部までになります。 ※2:長さはフットプレート(丸太置き台)先端までになります。



## ▲警告:油圧オイル、エンジンオイルについて

- ◇ このログスプリッターの出荷時には**油圧オイル、エンジンオイルは入っておりません。**
- ◇ 機械に油圧のオイルとエンジンのオイルを入れる前に、エンジンを始動したり運転したりしないでください。

### 5-1 油圧オイルについて

油圧オイルは油圧作動油の 32 番手をご使用ください

### 5-2 エンジンオイルについて

エンジンオイルは 5W-30 を推奨します。作業場所の気温などによって最適なものが他にも有る場合があります。

### 5-3 牽引について

本機を牽引して、公道を走行することはできません。

## 6 使用上の注意事項

### ▲警告

- ◇ 正しい操作のために下記の注意・警告事項を守ってください。使用上起こりうる障害と損傷や障害を避けるための正しい使い方を述べています。注意・警告事項を守らないと重大な事故に結びつくことがあります。

### 6-1 基本的注意

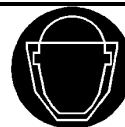
#### ▲警告:取扱説明書を熟読してください

- ◇ 薪割機を使用する前に、必ずこの取扱説明書を読み、操作・保守・点検を十分理解した上で使用すること。



#### ▲警告:正しい服装と保護具の着用

- ◇ 作業時には、①保護メガネ、②保護手袋、③保護靴を必ず着用すること。
- ◇ ダブダブの服装や装飾品など、薪割機や薪などに引っ掛かる恐れのあるもの、また、半ズボンなど肌を露出するものは着用しないこと。



#### ▲警告:薪割機の用途以外の使用禁止

- ◇ 薪割機は薪を割るために設計、製造されています。それ以外の用途には絶対に使用しないこと。他の目的で使用した場合、重大なケガや故障の原因となります。

#### ▲警告:使用者の制限または禁止

- ◇ 薪割機の使用、管理者は、薪割機の取り扱い方法および使用上の注意事項を理解していない者や、子供には薪割機を使用させないこと。
- ◇ 疲れているとき、体調が悪いとき、病気するとき、医薬品を服用したとき、飲酒したときには薪割機を使用しないこと。

#### ▲警告:貸与、譲渡時の注意事項

- ◇ 薪割機を他人に貸したり、譲渡する場合は、取扱い方法及び使用上の注意事項を十分説明し、この取扱説明書を必ず添付すること。

#### ▲警告:改造の禁止

- ◇ 如何なる改造も行なわないこと。改造に起因する故障や事故・損害については責任を負いません。

#### ▲警告:警告ラベルの取り外しの禁止

- ◇ 警告ラベルをはがしたり、消したりしてはいけません。警告ラベルがはがれていたり、読めない状態の薪割機での事故や故障について責任を負いません。

#### ▲警告:火災の防止をすること

- ◇ 火気厳禁;作業中にたばこを吸ったり、危険物を近づけないこと。
- ◇ 天然ガス、プロパンガス、ガソリンなど引火性のガスがある場所で使用しないこと。

#### ▲警告:照明を確保すること

- ◇ 薪割機の運転及び整備をするときは作業場全体を照明し、十分な明るさを確保すること。たとえ屋外でも十分な明るさが確保できないときは運転しないこと。

#### ▲警告:油圧調整の禁止

- ◇ 油圧の圧力の調整は行なってはいけません。誤って調整すると油圧が極端に高圧となり、ケガや事故の原因となります。

### 6-2 作業前の注意

#### ▲警告:使用前の点検

- ◇ 薪割機を運転する前にボルトのゆるみ、油圧オイルの漏れ、部品の損傷がないか点検確認すること。
- ◇ 各部を点検し、ゆるんでいるボルト・ナットの締付は確実にこなうこと。
- ◇ 燃料漏れ、オイル漏れがないか確認すること。異常があった場合には薪割機を運転してはいけません。
- ◇ 部品を交換する場合や薪割機に異常がある場合は、速やかに販売店に点検・修理を依頼すること。なお、部品は純正部品を使用すること。



#### ▲警告:燃料、オイル補給時の火気厳禁

- ◇ 火気厳禁:給油の時には必ずエンジンを止めて行なうこと。また、タバコの火や焚き火などの火気のある場所では行なわないこと。
- ◇ 給油の時に、燃料、オイルがこぼれた場合には、燃料を薪割機から完全に拭き取ること。
- ◇ 燃料、オイルの補給後は、キャップを確実に締めること。

#### ▲警告:薪の準備

- ◇ これから割ろうとする薪にくぎや針金などの異物がついている場合は、飛び跳ねたり薪割機を損傷したりするので取り除いておくこと。
- ◇ 薪の木口は斜めにせず真っ直ぐにし、枝は切除しておくこと。

#### ▲警告:薪割機の設置時の注意

- ◇ 薪割機を傾斜地や、滑りやすいところに設置してはいけません。必ず足場のしっかりとした水平な場所に設置すること。

#### **▲警告:薪割機の作動時の制限、又は禁止**

- ◇ エンジンの停止方法を理解しない内に、エンジンを始動してはいけません。
- ◇ エンジンを始動したら、スイッチを操作し、確実にエンジンが停止することを確認すること。
- ◇ 始動の際には給油場所から 3m 以上、離れること。
- ◇ 雨、風、大雪などの悪天候の時や周囲が暗いときに使用してはいけません。

#### **▲警告:排気ガスに関する注意事項**

- ◇ 絶対に、屋内や換気の悪い場所でエンジンを始動、運転してはいけません。排気ガスは有毒です。ガス中毒の原因となります。

### **6-3 作業中の注意**

#### **▲警告:作業範囲への他者の立ち入り禁止**

- ◇ 作業員から半径 5m 以内を作業範囲とし、この範囲に人やペットが入ってきた場合はすぐに薪割機を停止すること。
- ◇ 作業は必ず一人で行なうこと。

#### **▲警告:運転中の高電圧部、高温部の取扱い禁止**

- ◇ 薪割機の運転中は点火プラグキャップ部や高圧線を触れてはいけません。感電事故の原因となります。
- ◇ 運転中はマフラーやエンジン本体に触れてはいけません。また停止後もしばらくは高温ですので触れてはいけません。
- ◇ 運転中にタンクキャップを開けてはいけません。また、運転後もしばらくは高温ですので、開けてはいけません。

#### **▲警告:エンジン、及び薪割機の作動中の点検、修理の禁止**

- ◇ 薪割機の点検、修理、作業中断の場合には必ずエンジンを切り、完全に止まり、温度が下がってから行なうこと。
- ◇ 油圧ホースの口金を外すときは機械がまだ熱く圧力がかかっていますので、機械が冷えて、内圧を充分抜いてから行なうこと。
- ◇ 薪割機に異常を感じたら、ただちにエンジンを止め、点検を行なうこと。

### ▲警告：作業時の禁止事項

- ◇ 薪は必ず木目に沿って割ること、木目に直交して割ろうとしてはいけません。
- ◇ 一本ずつ割ること。二本以上まとめて割るとそのうち一本が外れ、作業者に当たる恐れがあります。
- ◇ 薪が斧から逃げる時は斧をいったん戻し、薪を回して置き直すこと。
- ◇ 斧が止まってから、薪をセットすること。
- ◇ 割っている最中の薪、割りきれなかった薪、斧に食い込んだ薪などの割れ目に手を触れてはいけません。割れ目が急に閉じて指を損傷する恐れがあります。
- ◇ 運転中の薪割機から離れてはいけません。
- ◇ 薪割機からわずかな時間でも離れるときはエンジンを止めること。また、誤って始動することの無いようにすること。
- ◇ 薪割機の運転中に薪割機を移動させてはいけません。
- ◇ エンジンが作動しているときに、薪割機にまたがったり、上に乗ったりしてはいけません。不意に誤動作を起こすことがあります。薪割機の向こう側に行くときは、薪割機の回りを歩くこと。
- ◇ ガバナーなどの調整でエンジンの回転を必要以上に上げてはいけません。

### 6-4 作業後の注意

#### ▲警告：作業終了直後の点検整備の禁止

- ◇ エンジン本体やマフラーはエンジン停止後もしばらくは高温です。エンジンの点検整備や給油はエンジン本体やマフラーが十分に冷えてから行なうこと
- ◇ 油圧オイルは、運転後もしばらくは高温です。油圧オイルの点検・交換・補充は油圧オイルが十分に冷えてから行なうこと。

#### ▲警告：点検時の注意事項

- ◇ 油圧ホースに目に見えないような穴があいていた場合、油圧オイルが皮膚を突き刺す勢いで吹き出し、重大な事故や死亡の原因となります。油圧オイルの漏れを探すときは素手で行ってはいけません。必ず木片や、ボール紙を使用すること。
- ◇ 漏れた油圧オイルに触れると、油圧オイルが肌に染み込むことがあります。もし、油圧オイルによって肌に異常が見られる時は医師の診察を受けてください。
- ◇ エンジンを止めた後は内圧を抜くために、シリンダーが動かなくなるまでコントロールレバーを上下に数回動かすこと。
- ◇ エンジンを点検、修理するときは、スパークプラグを外すか、あるいはプラグキャップを外すこと。これはエンジンが誤って始動しないようにするためです。

#### **▲警告：保管時の注意**

- ◇ 長期間使用しないときは、燃料タンクを空にして、屋内の湿気やほこりの少ないところに保管すること。
- ◇ 薪割機を引火性のガスがたまっているようなところ、または火気や火花が届くようなところには保管してはいけません。
- ◇ 子供の手の届かないところに保管すること。
- ◇ シリンダーは、完全に縮めた状態から、5cmほど伸ばした状態で、保管してください。

#### **▲注意：運搬時の注意**

- ◇ 使用中に次の作業地に行くときは、たとえ短い距離でも必ずエンジンを止めて、ビームを倒して移動してください。

## 7 組立

### △注意:組立の注意

- ◇ 人身事故を防ぐために、ビームなどの重い部品を移動したり組み立てたりするときは、必ず必ず2人以上で行ってください。

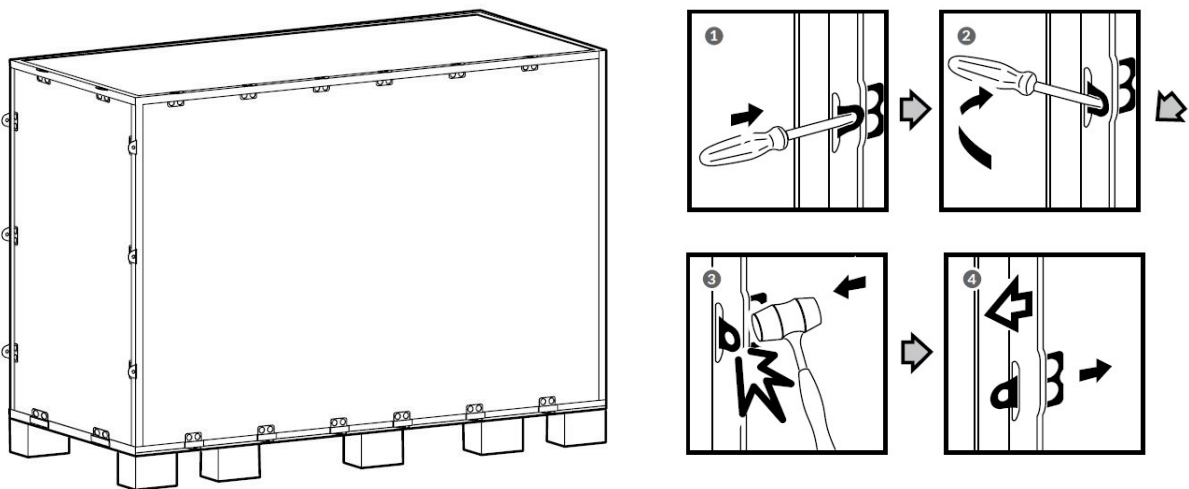
### 7-1 必要な工具

本機の組立には下記の工具が必要となります。予め組立方法を確認して、必要な工具、または同等品をご用意ください。

1/4 インチ(6.3mm)幅程度のマイナスドライバー	10mm スパナ×2 本
ラジオペンチ(プライヤー)	13mm スパナ×2 本
ハンマー	18mm のレンチまたはスパナ
カッター	19mm のレンチまたはスパナ
10 mm 六角棒スパナ(付属しています)	モンキーレンチ(開口部 32mm 以上)

### 7-2 箱の開封

1. 金属製のサイドロックをすべて曲げて、天板と側板を引き抜いてください。ずれや歪みが生じている場合、取り外しにくくなっておりますので注意してください。  
(使用工具:1/4 インチ(6.3mm)幅のマイナスドライバー、ハンマー、ラジオペンチ(プライヤー)、カッター)



2. 開梱した後、輸送時に破損した部品がないかすべての部品を確認してください。
3. パレットの底板からバラバラになったものを取り除き、脇に置いておきます。
4. 固定バンドをすべて切断し、各部品に損傷がないか確認してください。

### 7-3 本機内容

本機には以下のものが含まれています。ご確認ください。

- タイヤ Asy × 2 個



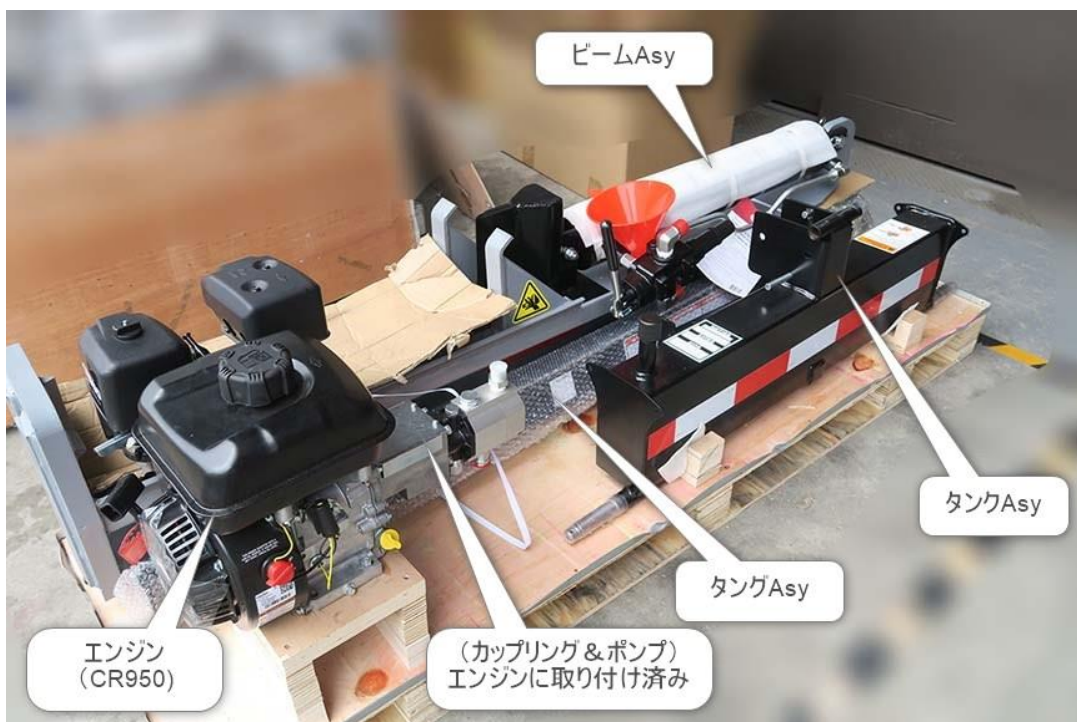
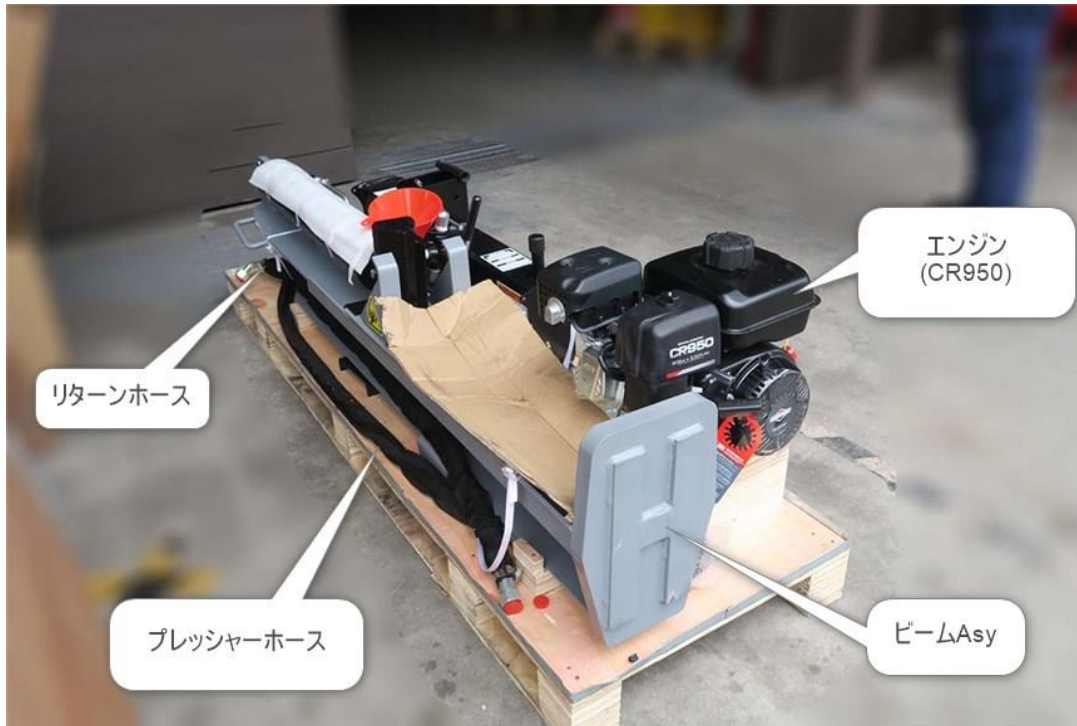
- 入り組み品箱1  
ログキャッチャー、ハードウェアキット



- 入り組み品箱2  
マニュアルキャニスター、ビームロック



- ビーム Asy
- エンジン Asy
- 油圧ホース 2種類(リターンホース、プレッシャーホース)
- タンク Asy
- タング Asy





## 7-4 タイヤの取付

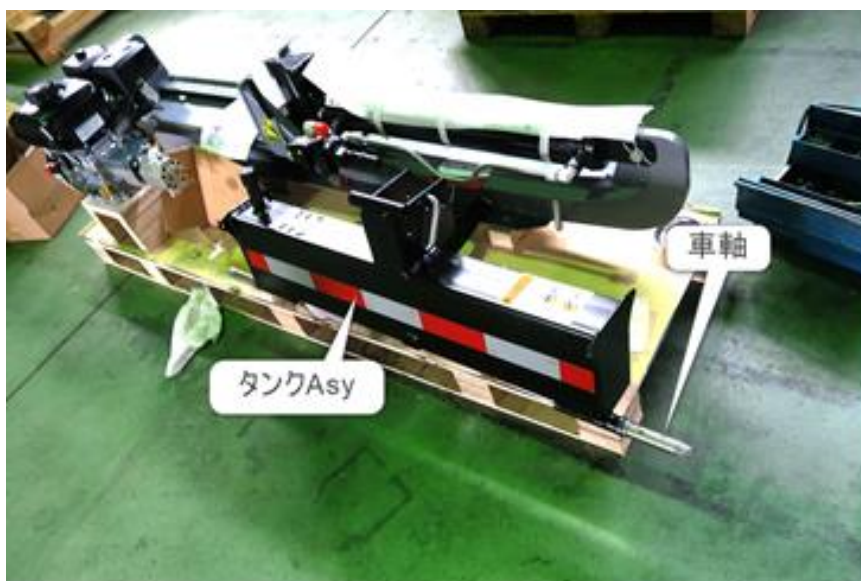
(使用工具: モンキーレンチ、ラジオペンチ(プライヤー)、ハンマー)

1. 予めタンク Asy をパレットから引き抜いてタンク Asy を動かす隙間を確保します。



2. タンク Asy をパレットの底板に固定しているボルトを外してパレットから取り外します。

3. タンク Asy をパレットの角に置いて、車軸がパレットから離れるようにすると、パレットを取り付け時の台として使用できます。



4. 片方の車軸から保護カバーを取り外します。

5. ハードウェアキットから
  - フラットワッシャー×2 個
  - キャスルナット×2 個
  - コッターピン×2 個
  - ダストキャップ×2 個を取り出します。





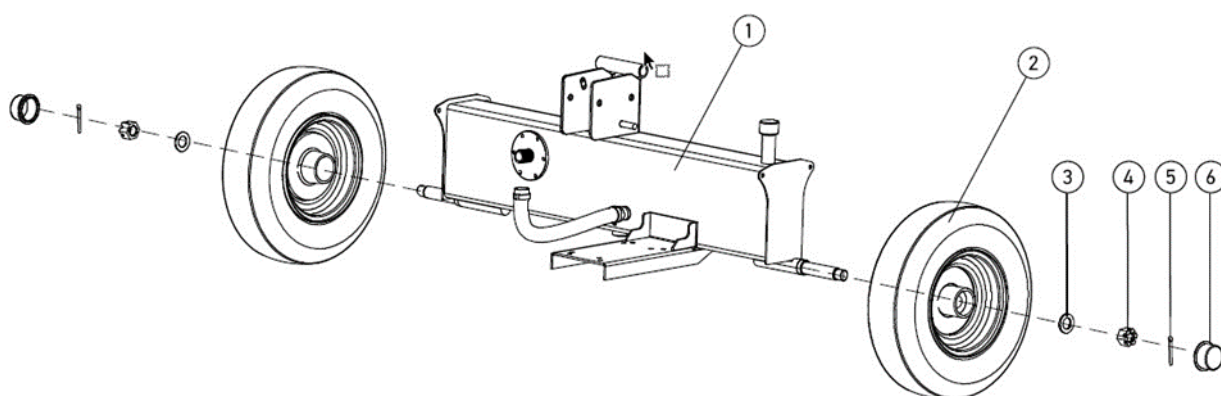
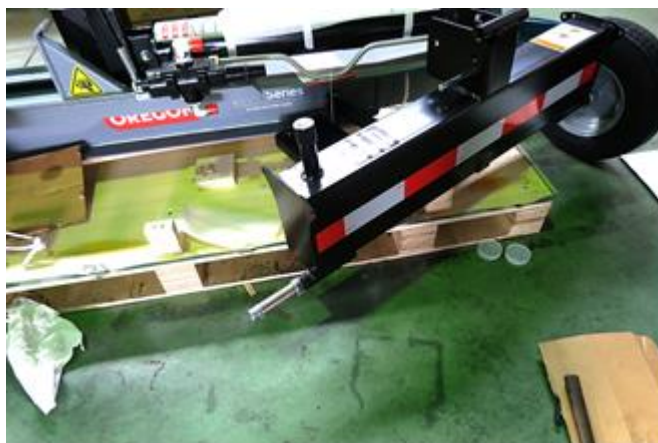
6. 差し込むタイヤのプラスチックカバーを取り外します。
7. タイヤ(バルブが有る側を外側にして)、フラットワッシャー、キャッスルナットを取り付け、モンキーレンチでキャッスルナットを軽く締め込みます。
8. キャッスルナットを戻して(緩めて)、車軸の穴とキャッスルナットの切り欠きを合わせ、コッターピンを挿入します。コッターピンを取り付けるために、必要以上に緩めないでください。



9. タイヤを回転させて、自由に回転することを確認します。  
注: 少量の遊びがあっても構いません。
10. コッターピンの端を左右に割って曲げて抜けないようにします。
11. ダストキャップを取り付けます。ダストキャップがハマりづらい場合は軽く叩いてタイヤ軸にハマるようにしてください。



12. もう一方のタイヤを取り付けるために、上記の手順を繰り返します。



		ハードウェアキット内	
1	タンク Asy	3	フラットワッシャー×2 個
2	タイヤ	4	キャスルナット×2 個
		5	コッターピン×2 個
		6	ダストキャップ×2 個

### 7-5 タング Asy の取り付け

(使用工具: 18mm スパナあるいはソケットレンチ)

1. ハードウェアキットから

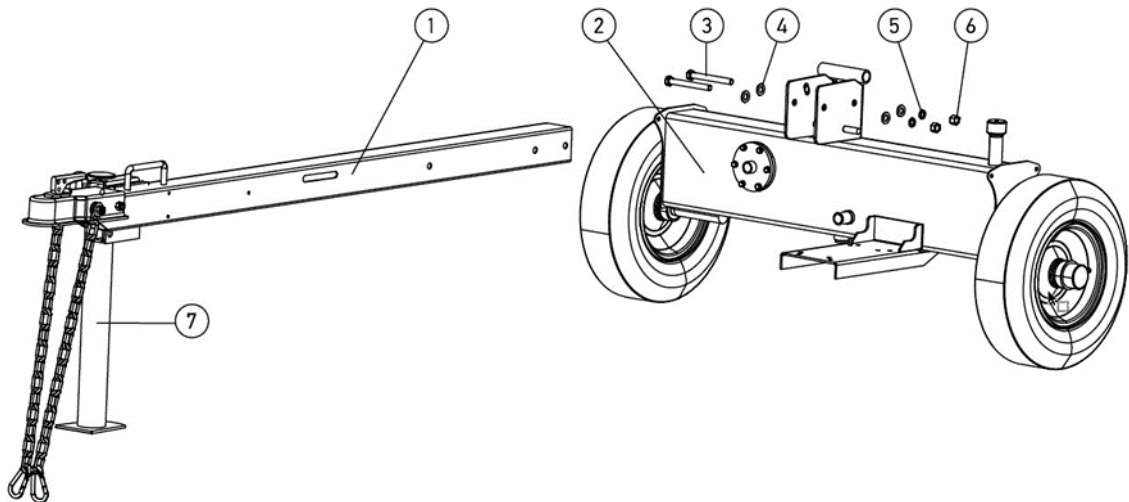
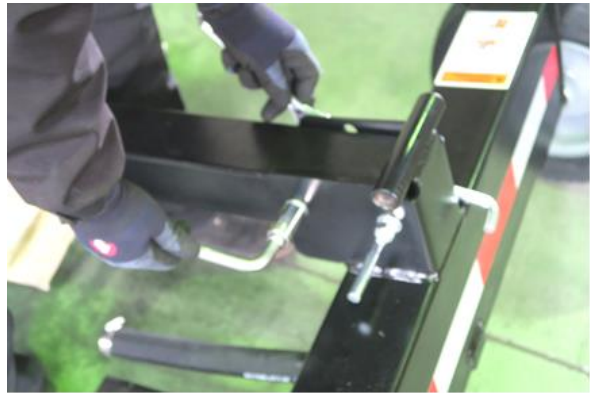
- M12×11mm ボルト×2 本
- フラットワッシャー×4 個
- スプリングワッシャー×2 個
- M12 ナット×2 個

を取り出します

2. タング Asy のジャッキを立てます。



3. タング Asy の取り付け穴が、タンク Asy のタンクマウントの穴と一致するようにして、2 本の M12×11mm ボルトを、ボルトの頭の下にフラットワッシャーを入れて挿入します。
4. 各ボルトにフラットワッシャー、スプリングワッシャー、ナットを取り付け、締め付けます。



		ハードウェアキット内	
1	タンク Asy	3	M12×11mm ボルト×2 本
2	タンク Asy	4	フラットワッシャー×4 個
		5	スプリングワッシャー×2 個
7	スタンド	6	M12 ナット×2 個

### 7-6 ビーム Asy の取り付け

(使用工具: 19mm スパナ、ラジオペンチ、10mm 六角棒スパナ、カッター)

1. ビームをパレットの底板に固定しているバンドと 2 本の固定ボルトを外します。

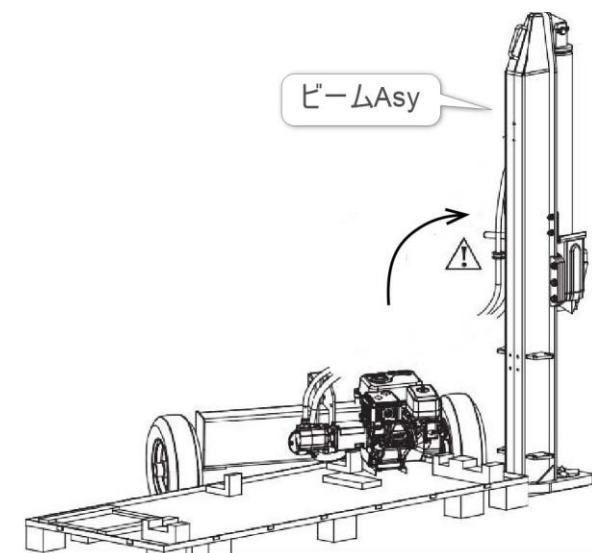


2. ビームをスライドさせて、フットプレートがパレットの端にかかるようにします。
3. 平坦でしっかりした場所（コンクリートやアスファルト等の地面）にビームを起こして立てます。転倒させない様にご注意ください。

安全のために、2人以上で作業してください。

**⚠注意：組立の注意**

- ◇ ビームがタンク／タング Asy に固定されるまで、誰かに支えてもらってください。

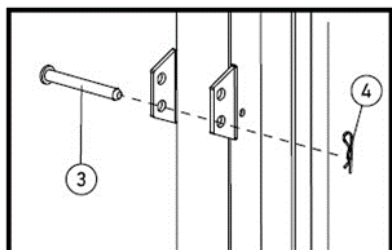


4. ハードウェアキットから

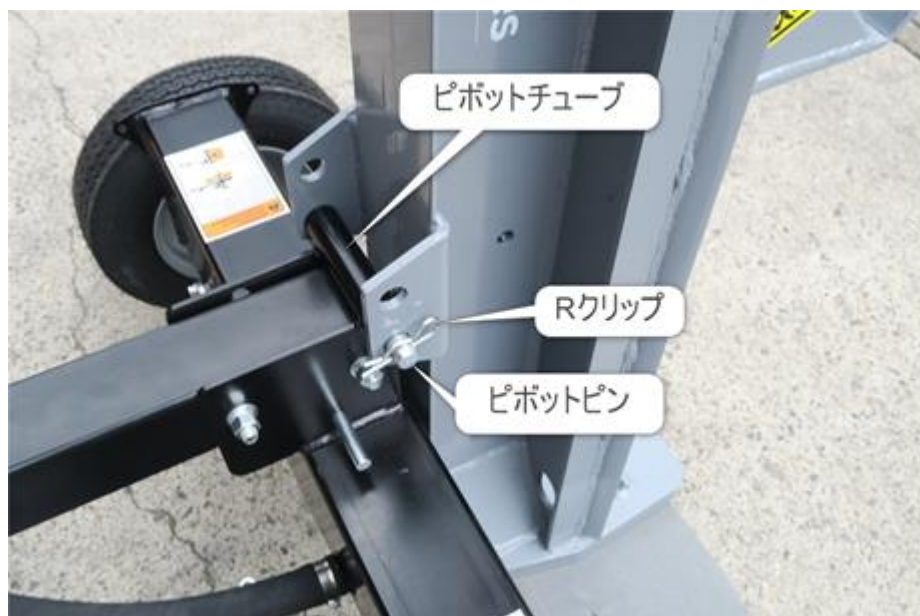
- ピボットピン
  - Rクリップ
- を取り出します。



5. タンク／タング Asy を動かして所定の位置に置き、タンク Asy にあるピボットチューブとビームにある穴（下側 2 個）を合わせます。



6. ピボットピンをビームの穴とピボットチューブの穴に合わせて通し、反対側を Rクリップで固定します。



7. タンク Asyにあるビーム垂直ロックをかけます。



### 7-7 ビームロックの取り付け (使用工具: 10mm 六角棒スパナ)

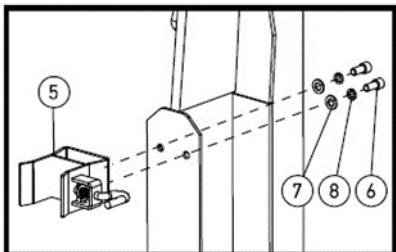
1. 入り組み品箱2からビームロックを用意します。



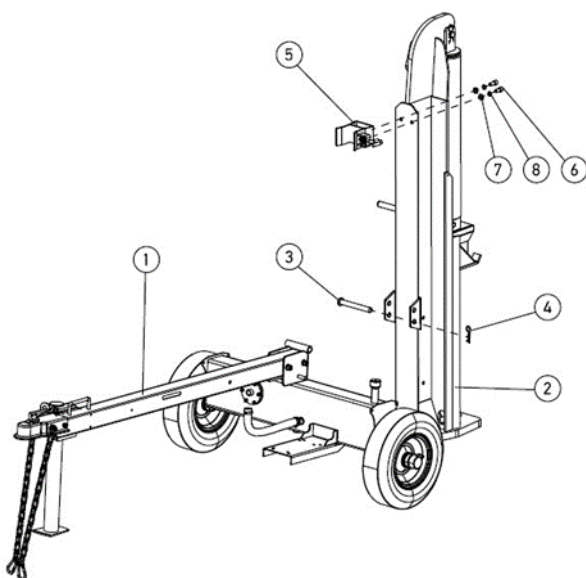
2. ハードウェアキットから
- M12×25mm×2 個
  - M12 フラットワッシャー×2 個
  - M12 スプリングワッシャー×2 個
- を用意します。(ピボットピンとRクリップが入っていた場所と一緒に)



3. ビームを垂直にした状態で、ビームロックを取り付け位置に合わせて押さえておきます。
4. 付属の六角棒スパナとネジ、ナットを使って、ビームロックを固定します



5. ビーム垂直ロックを外し、ゆっくりとビームを水平に倒して、ビームがタンクにロックされることを確認します。

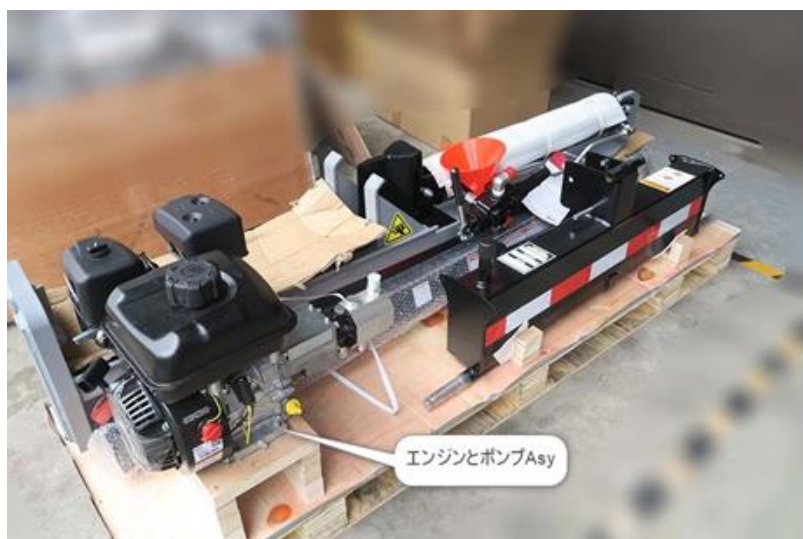


		ハードウェアキット内	
1	タンク/タング Asy	3	ピボットピン
2	ビーム Asy	4	Rクリップ
		6	ソケットスクリュー M12×25mm ×2 個
5	ビームロック	7	フラットワッシャー×2 個
		8	スプリングワッシャー×2 個

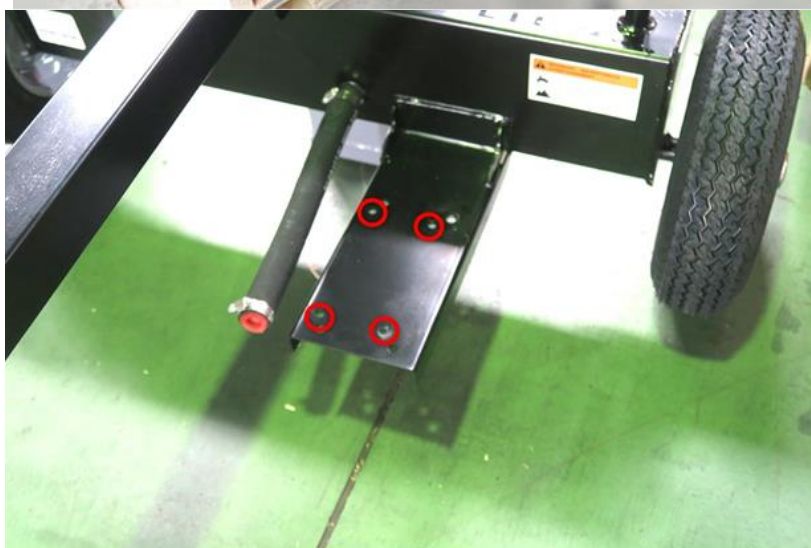
## 7-8 エンジンの取り付け

(使用工具: 13mm スパナ)

1. エンジンとポンプの Asy をパレットの底板に固定している 2 本のボルトを外してパレットから取り外します。



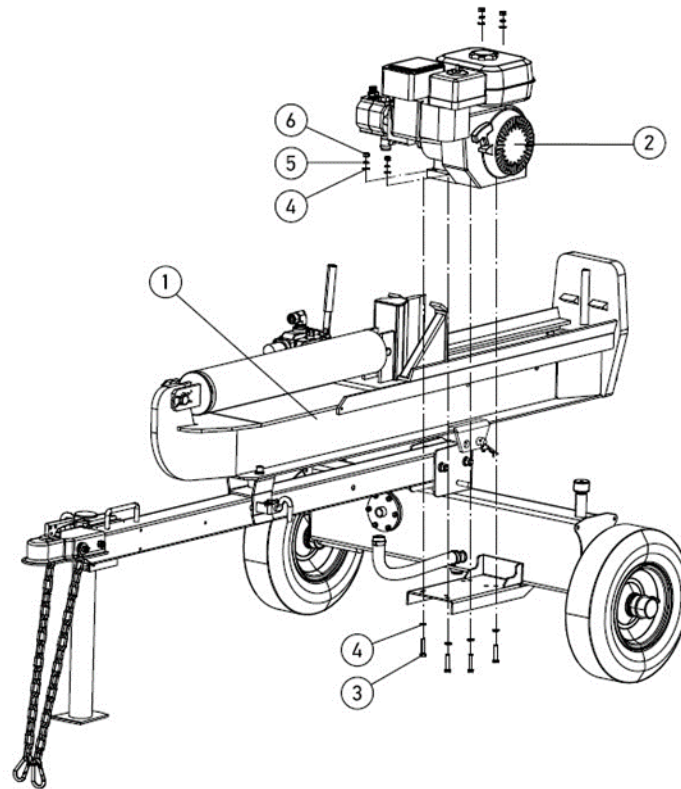
2. タンク Asy のエンジンプレートの上に置きます。このときポンプ Asy を内側に向けて、取り付け穴は図の赤丸の方に合わせてください。



3. ハードウェアキットから、
  - M8 x 40mm ボルト×4 本
  - フラットワッシャー φ8×4 個
  - スプリングワッシャー×4 個
  - M8 ナット×4 個を用意し、図のように取り付けて均一に締めます。







		ハードウェアキット内	
1	ログスプリッターAsy	3	M8×40mm ボルト×4 個
2	エンジンとポンプ Asy	4	M8 フラットワッシャー×4 個
		5	M8 スプリングワッシャー×4 個
		6	M8 ナット×4 個

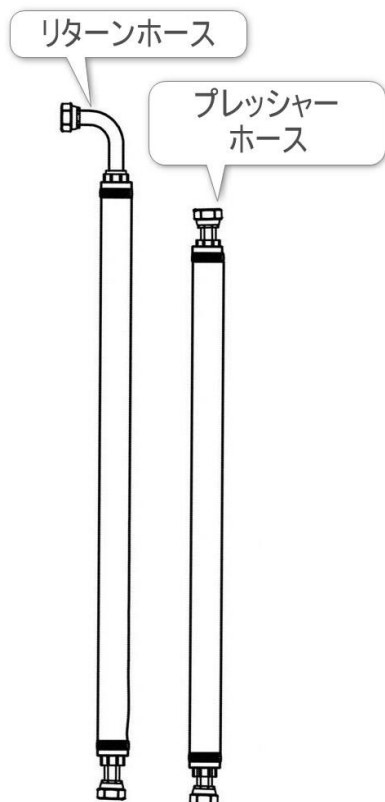
## 7-9 オイルホースの接続

(使用工具: モンキーレンチ、マイナスドライバー)

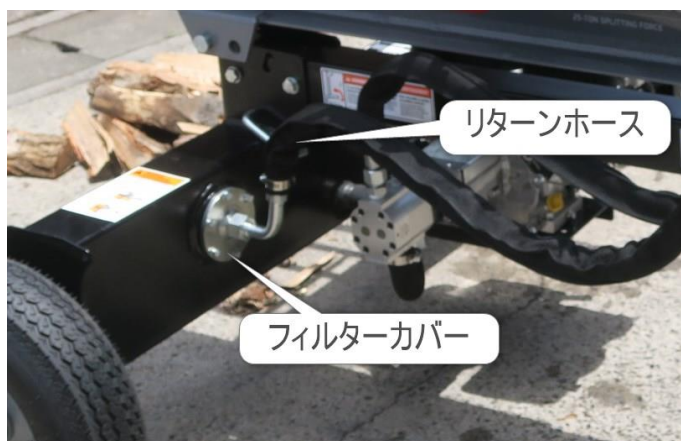
1. タンク Asy 前面に取り付けてあるサクションホースの先端のプラスチック製のダストキャップを外して油圧ポンプの下に差し込み、ホースクランプをしっかりと締め込みます。



2. リターンホース、プレッシャーホースを用意し、端にあるキャップを外します。

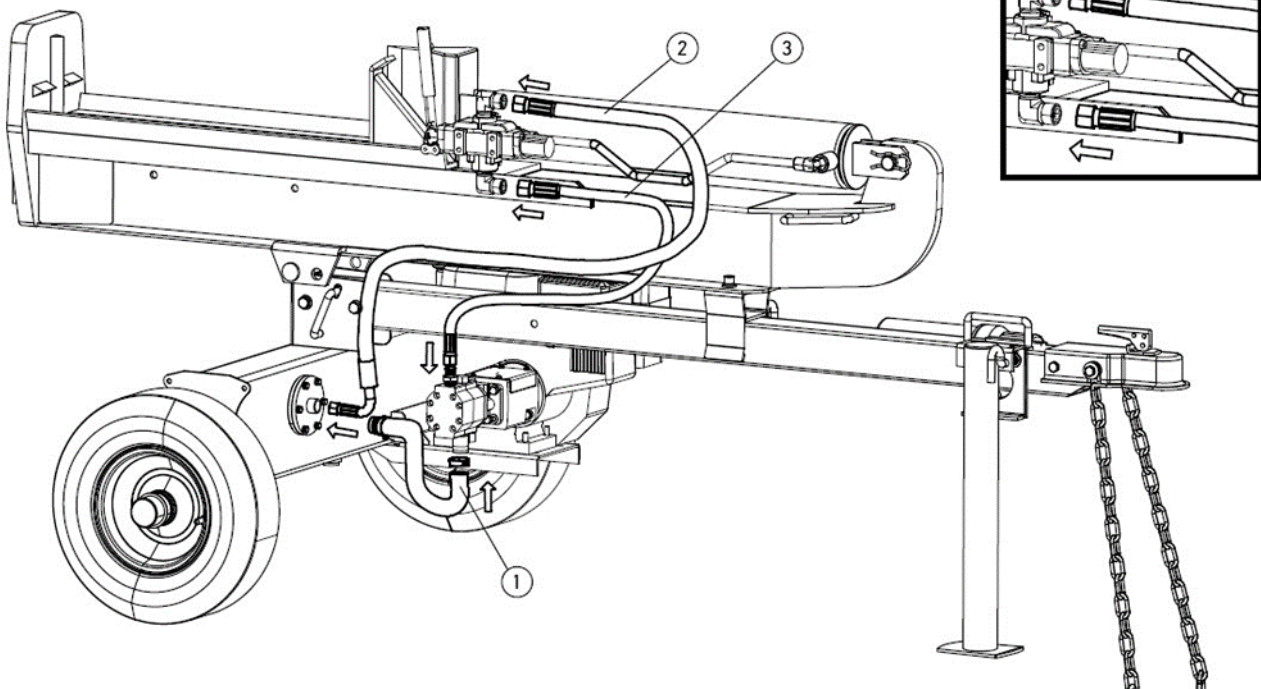
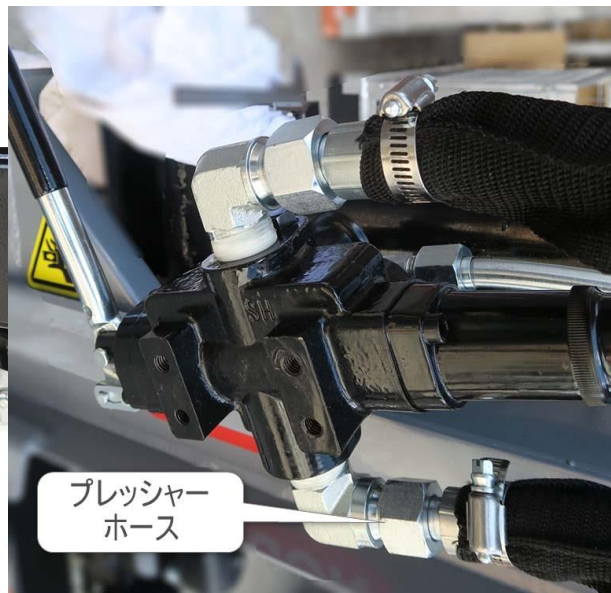
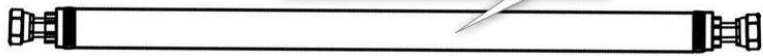


3. リターンホースの先端が 90 度になっている側を燃料タンクのフィルターカバーに取り付け、上を向くように締め付けます。  
4. もう一方の端を図のようにコントロールバルブの上側に取り付けます。



5. プレッシャーホースはポンプの上側に取り付け、反対側はコントロールバルブの下側に取り付けます。

プレッシャーホース



1	サクションホース
2	リターンホース
3	プレッシャーホース

## 7-10 ログキャッチャーの取り付け

(使用工具: 18mm スパナ×2 本)

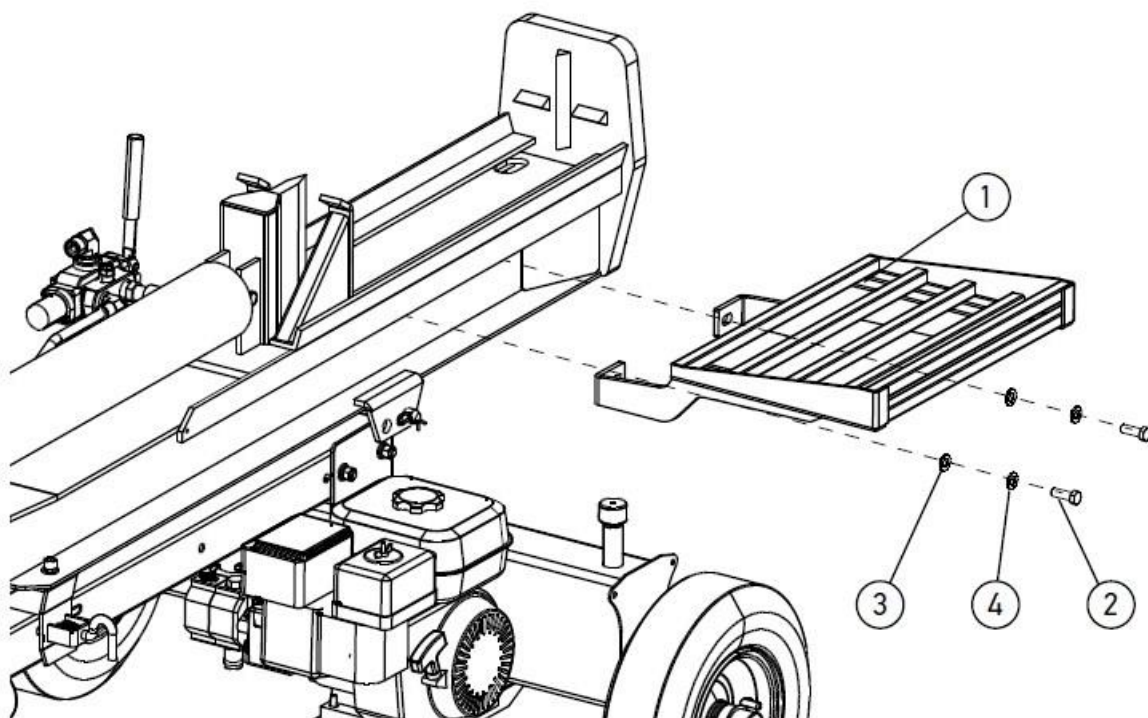
1. 入り組み品箱1からログキャッチャーを取り出します。



2. ハードウェアキットから
  - M12×35mm ボルト×2 本
  - M12 フラットワッシャー×2 個
  - M12 スプリングワッシャー×2 個
 を用意します。



3. ログキャッチャーの穴とビームの穴を合わせネジで締め付けます。



		ハードウェアキット内	
1	ログキャッチャー	2	M12×35mm ボルト×2 本
		3	M12 フラットワッシャー×2 個
		4	M12 スプリングワッシャー×2 個

## 7-11 マニュアルキャニスターの取り付け

(使用工具: 13mm スパナ×2)

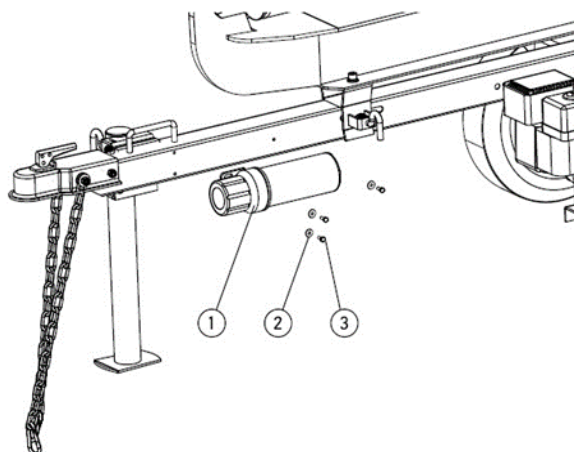
1. 入り組み品箱2からマニュアルキャニスターを用意します。
2. ハードウェアキットから
  - M6×20mm×3 個
  - M6 フラットワッシャー×3 個
 を用意します。
3. マニュアルキャニスターのキャップを外してください。キャップが干渉して真っ直ぐに M6 ネジを取り付けられなくなります。



### ⚠注意

- ◇ 取り付けネジは斜めに差し込んだり、強い力で締め込むとナット部分が共回りし、ナットのカシメが外れてしまう可能性があります。取り付けネジはまっすぐ確認しながら取り付けてください。
- ◇ エアツールや電動工具などインパクトのかかる工具では締め付けを行わないでください。

4. マニュアルキャニスターをタンク Asy にネジ止めします。



		ハードウェアキット内	
1	マニュアルキャニスター	2	フラットワッシャー M6×3 個
		3	M6 x 20mm.ボルト×3 個

## 8 運転の前に

本機を使用する前にならず下記の点について確認してください。

### ▲警告:油圧オイル、エンジンオイルについて

- ◇ このログスプリッターの出荷時には**油圧オイル、エンジンオイルは入っておりません。**
  - ◇ **予め油圧オイル、エンジンオイル、ガソリンを用意してください。**
  - ◇ 油圧オイルは油圧作動油の 32 番手をご使用ください  
油圧オイルは空の状態からおおよそ 17 リットル(4.5 米ガロン)ほど入ります。
  - ◇ エンジンオイルは 5W-30 を推奨します。作業場所の気温などによって最適なものが他にも有る場合があります。  
エンジンオイルは空の状態からおおよそ 16~20 オンス=470~590cc 入ります。
  - ◇ 油圧のオイルとエンジンのオイルを入れる前に、エンジンを始動したり運転したりしないでください。
- ◇ エンジンのシリアルナンバーはエンジン側面に貼付されています。
  - ◇ 本機のシリアルナンバーはタンク正面に貼付されています。



### ▲警告:作業上の注意

- ◇ 本ログスプリッターを組み立てたり操作したりする前に、本マニュアルおよび安全シールに記載されているすべての指示を読み、十分に理解してください。誤った取り扱いをすると、重傷または死亡の原因となります。このマニュアルを読んでいない人に、このログスプリッターを操作させないでください。他の動力機器と同様に、ログスプリッターも不適切に組み立てたり使用したりすると危険です。安全な操作について疑問がある場合は、このログスプリッターを操作しないでください

## 8-1 油圧オイルの給油について

油圧オイルは油圧作動油の 32 番手をご使用ください

1. 本機を水平な場所に固定してください。
2. 油圧タンクにゆっくりと油圧オイルを注いでいきます。



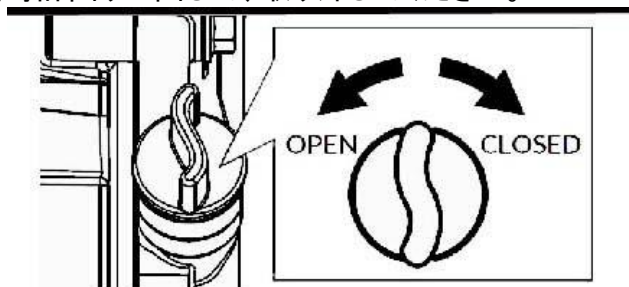
3. 少しずつオイルゲージで油量を確認しながら給油を行ってください。
4. オイルゲージは差し込む前に一度拭いてからゆっくりと給油口にあてがいます。
5. オイルゲージはねじ込まずにゆっくりと引き抜いてオイルゲージに残っているオイルがゲージの表示内に収まるまでエンジンオイルを給油してください。  
油圧オイルは多くても少なすぎても故障の原因となります。

## 8-2 エンジンオイルの給油について

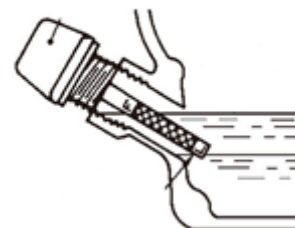
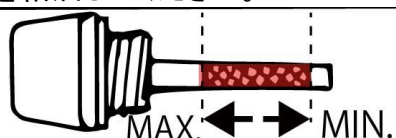
エンジンオイルは 5W-30 を推奨します。作業場所の気温などによって最適なものが他にも有る場合があります。

エンジンオイルは空の状態からおおよそ 16~20 オンス=470~590cc 入ります。

1. 本機を水平な場所に固定してください。
2. エンジン横のオイルゲージを反時計回りに回して、取り外してください。



3. 漏斗などを使って、こぼさないように静かに給油していきます。
4. 少しずつオイルゲージで油量を確認しながら給油を行ってください。
5. オイルゲージは差し込む前に一度拭いてからゆっくりと給油口にあてがいます。
6. このときオイルゲージはねじ込まずにゆっくりと引き抜いてオイルゲージに残っているオイルがゲージの表示内に収まるまでエンジンオイルを給油してください。



### 8-3 燃料タンクへの給油

本機を水平な場所に固定してください。

燃料タンクにガソリンを入れる際にはエンジンを停止して高温になっていないことを確認してください。

1. エンジンの燃料キャップを外しガソリンを静かに給油していきます。
2. ガソリンは熱や振動で膨張していきますので、満タンに入れずに燃料タンクに上から 16mm 程度の余裕ができる程度にしてください。



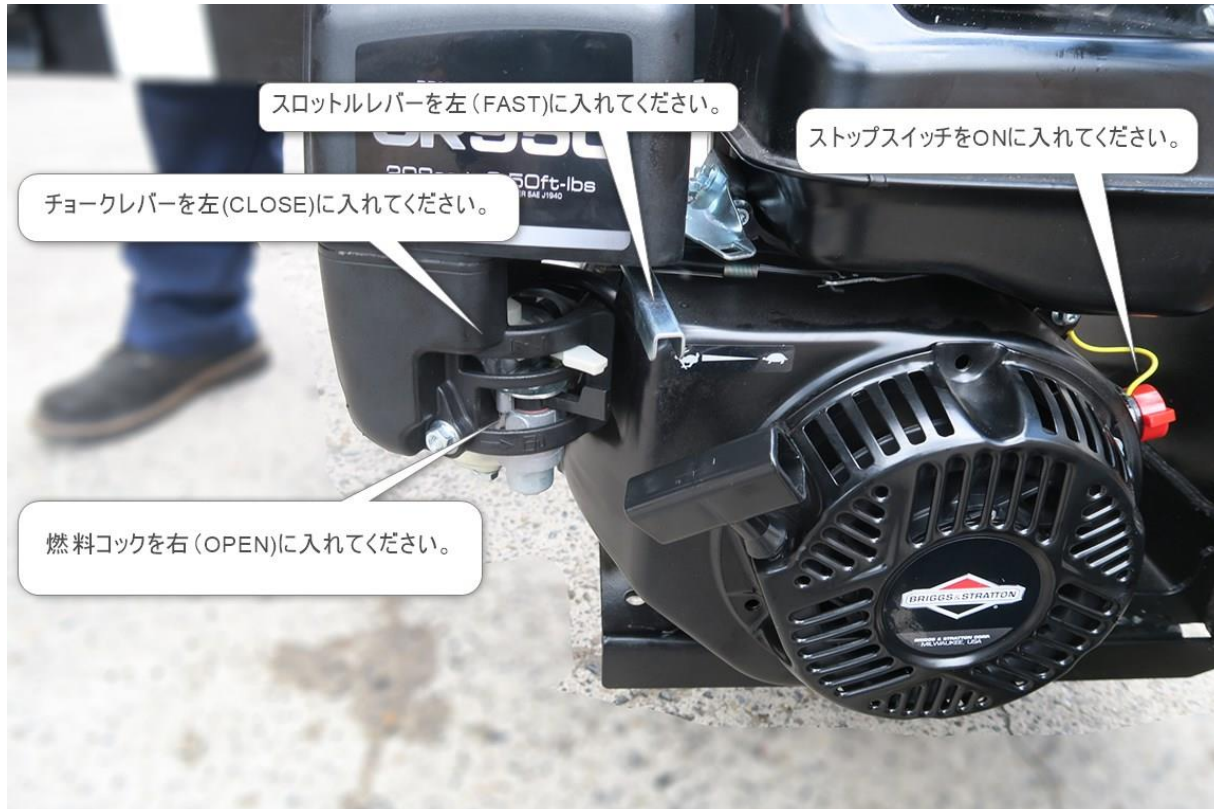
## 9 エンジンの始動と停止

### 9-1 エンジンの始動方法

- ガソリン、エンジンオイル、油圧オイルが適切に入っているかどうか確認してください。
- 本機が水平でしっかりと固定されているか確認してください。


始動手順

1. ストップスイッチを時計回りにひねって ON に入れます。
2. スロットルレバーを左 (FAST) に入れれます
3. チョークレバーを左 (CLOSE) に入れれます。
4. 燃料コックを右 (OPEN) に入れれます





5. スターターハンドルをゆっくりと引き、抵抗を感じるころから勢いよく引っ張ります。
6. このときスターターハンドルに強い抵抗がかかって引っ張られることがありますので、スターターハンドルはしっかりと持ってください。
7. エンジンが始動し安定したらチョークレバーを右 (OPEN) に入れてください。



- 始動時にスロットルを右(SLOW)  にするとエンジンが停止してしまう場合があります。しっかりとエンジンが暖気されていることを確認してください。

### 9-2 停止

- ピストン(斧)が戻ってコントロールレバーが中立になっているか確認してください。
- スロットルレバーをゆっくりと右(SLOW)  に入れます。
- ストップスイッチを反時計回りにひねってエンジンを停止させます。
- 燃料コックを左(CLOSE)  に入れてください。

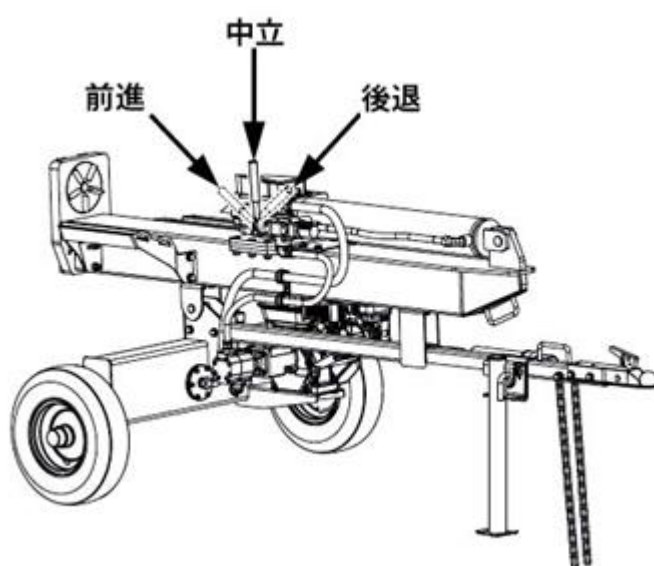
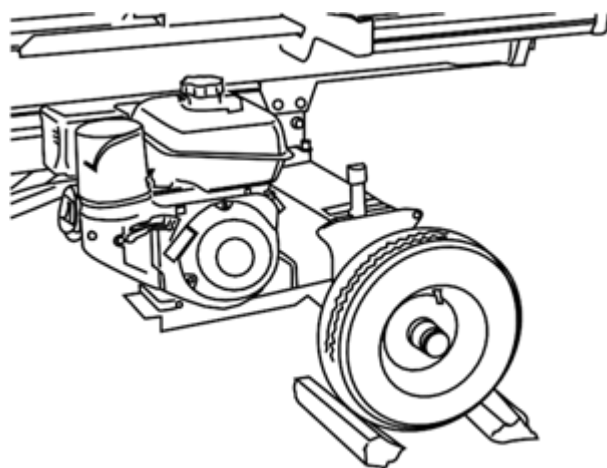
### 9-3 エンジンの試運転

新しいエンジンをはじめて運転するときは慣らし運転を行なってください。これは、エンジン本来の性能を得るためです。

## 10 ログスプリッターの試運転

初めて給油したり、しばらく使用していないときは使用前に油圧回路の試運転を行います。

- 本機を水平な場所に固定してください。
- タイヤを両側に車止めをおいてタイヤが動かないように固定します。
- ビームは倒して水平の状態にしてください。
- 油圧オイルとエンジンオイルが適切に入っているかどうか、オイルゲージで確認してください。
- ガソリンが適切に入っているかどうか確認してください。
- ホースの接続部、ナットやボルトなどの固定具が緩んでいないか確認してください。
- エンジンを始動します。
- エンジンが安定して動いていることを確認したらコントロールレバーをフットプレート側に動かし(前進)、斧が進んでいくことを確認します。
- 斧が止まったらすぐにコントロールレバーを逆方向(後退)に押し離します。
- 斧はスタート位置まで戻りますので、この手順を数回繰り返し油圧回路をオイルで満たして空気を油圧タンク側に追いやっていきます。
- このとき斧の動きが不規則な場合は油圧回路内にまだ空気が残っていますので、その間はこの手順を繰り返してください。



- 斧がコントロールレバーを押していても勝手に引き戻るときは、数回この手順を繰り返した後エンジンを停止して油圧オイルを補充し、漏れがないか確認してください。

## 11 薪割り作業

### ▲警告

- ◇ シリンダーが作動している間は、斧、丸太等から手足を離すこと。
- ◇ シリンダーが作動しているときは、正面に立たないこと。
- ◇ 丸太が斧から逃げるような場合には、一度シリンダーを戻して丸太の向きを変えること。決して手で押さえてはいけません。
- ◇ 丸太が割れるときにできる裂け目に手を触れてはいけません。急に裂け目が閉じて、指が挟まれたり切断される場合があります。
- ◇ 丸太を複数まとめて割ってはいけません。一方が飛び上がり、ケガをする場合があります。

### ▲注意

- ◇ 斧に直交させて置いてはいけません。このような置き方で丸太を割りますと、事故や故障の原因となります。
- ◇ 丸太にくぎやワイヤなどが刺さっていると故障の原因になりますので取り除いてください。
- ◇ 油圧シリンダーが伸びきった状態でコントロールレバーを前方に押し続けてはいけません。油圧オイルが極度に熱くなり、油圧ポンプなどの故障の原因となります。
- ◇ 下記のように特殊な形をした丸太を割ってはいけません。斧を痛めることがあります。
- ◇ 丸太の端が斜めになっている場合は平らに切りなおします。



- ◇ 枝が多い場合はできるだけ落としてください。

### 11-1 薪について

節があり、繊維が硬く、木目が真っ直ぐではない薪は、たとえ細くても割れないことがあります。一方、節がなく、繊維が柔らかく、木目が真っ直ぐな薪は、太くても割れることがあります。一度割ってみて割れなかった薪を何度も割ろうとしないでください。無理に割ろうとして圧力をかけ続けると、油圧回路がオーバーヒートして、油圧ポンプ等各部を破損する原因となります。

### 11-2 実際の薪割りの操作の前に

ログスプリッターを操作する前に、以下のことを確認してください。

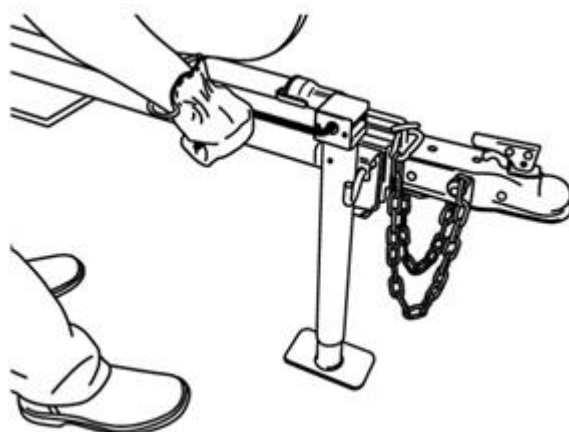
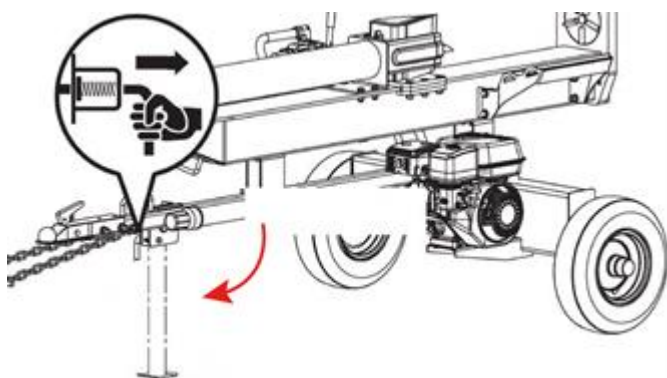
薪は、25.5 インチ(65cm)以下の適切な長さのものを使用してください。水平にして割る場合は、100ポンド(45kg)以上の丸太は割らないでください。

濡れた地面や滑りやすい斜面を避けて、水平な作業場所を選びます。

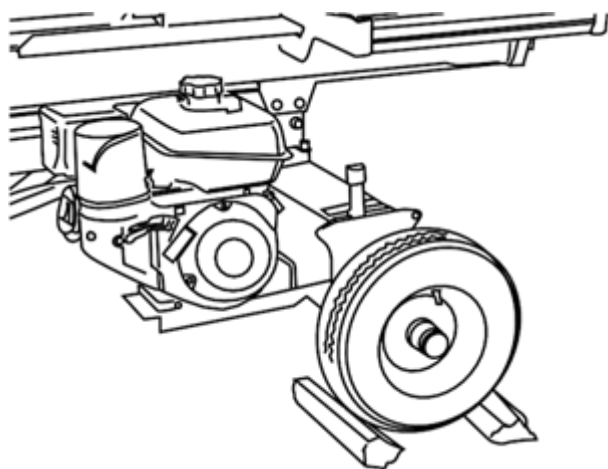
十分な明るさがあることを確認し、暗闇では絶対にスプリッターを操作しないでください。

### 11-3 ログスプリッターの設置と準備

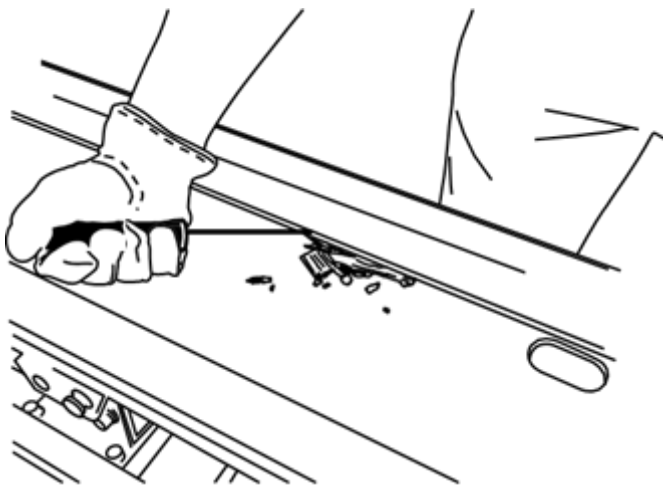
1. ジャッキを下ろしてログスプリッターを固定させます。ログスプリッターがしっかりと固定されているかどうか確認してください。必要に応じてジャッキの下に段ボールなどをあてがって安定するようにしてください。



2. 使用中のログスプリッターを安定させるために、タイヤの両側に車止めを置いてタイヤをブロックします。
3. 使用する前に、ホースの接続部、ナットやボルトなどの固定具が緩んでいないかどうか確認してください。



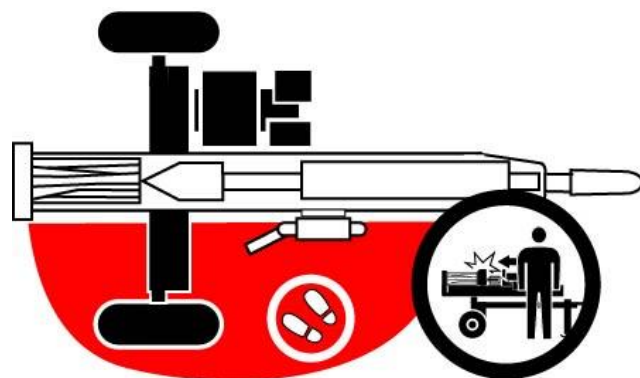
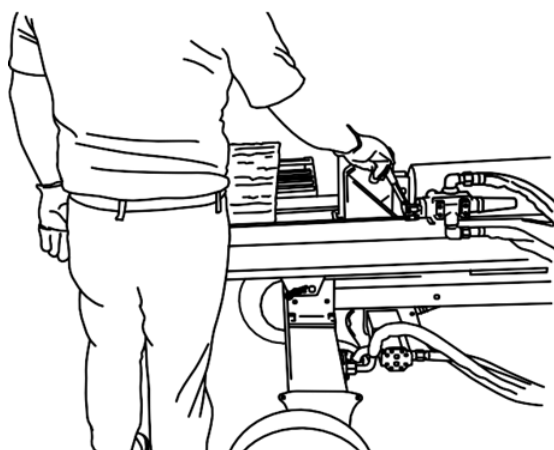
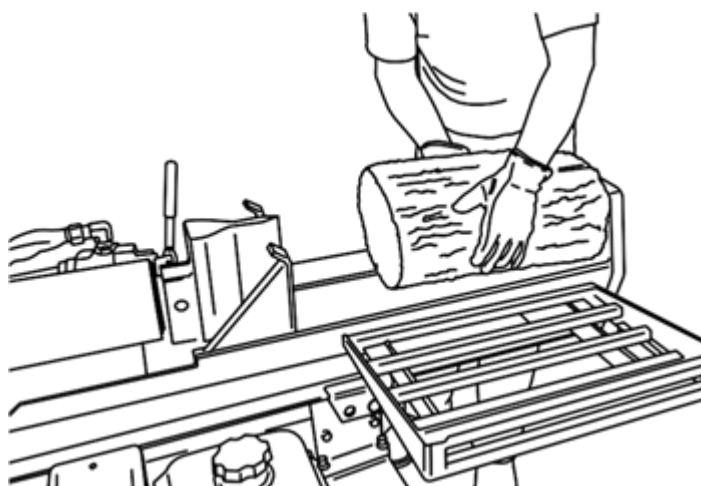
4. ビームレールや隙間などに木片やゴミが付着していないことを確認します。これは薪割り作業の合間に必要に応じて清掃してください。
5. ビームレールにオイルを塗布しておいてください。



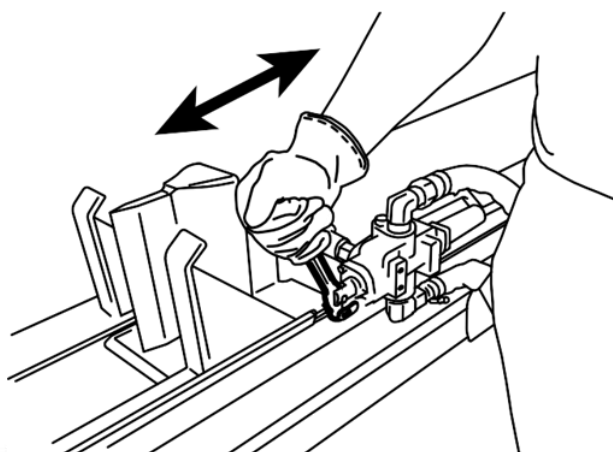
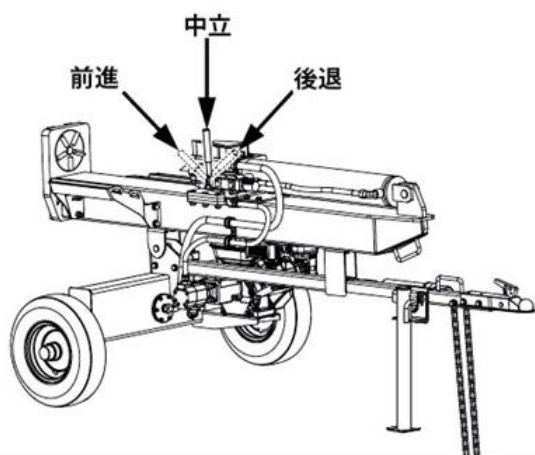
#### 11-4 ログスプリッターの操作-水平位置

適切な安全服や装備を着用してください。

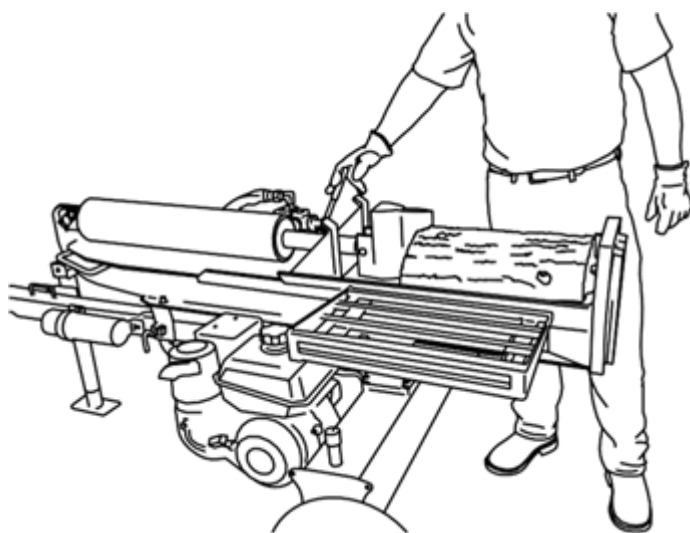
1. エンジンを始動したら、100 ポンド(45kg)以下の丸太をビームレールに乗せ、フットプレートに向かってスライドさせます。
2. 丸太をビームレールに乗せるときは、丸太とレールの上に手を入れず、丸太の端ではなく側面から扱います。
3. 木材は必ず木目に逆らわず、木目に沿って割ります。一度に2本以上の丸太を割ろうとしないでください。
4. ピストンを操作する前に、適切な位置に立っていることを確認してください。図を参照してください。



5. 丸太を適切な位置に置いたら、片手をコントロールレバーに置き、フットプレートの方(前進)に動かします。これで油圧が作動し、斧が丸太の中に押し込まれます。



6. 斧が完全に木を割り、ピストンがビームレールを完全に横切るまで、レバーに一定の圧力をかけ、レバーを引いて斧を後退させます。レバーを一度引き戻すと、レバーは自動的にスタート位置に戻るまで、引き込み位置でロックされます。
7. 斧がフットプレートに向かって移動している間は、もう片方の手を丸太に当てないでください。油圧が作動している間は、絶対に丸太に触れないでください。



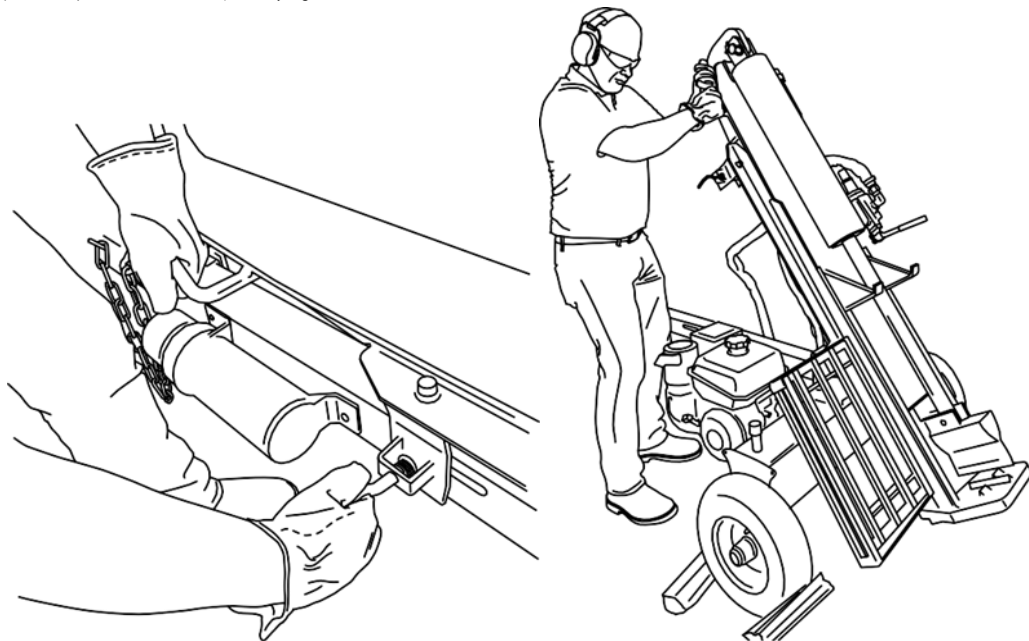
8. 斧がビームレール上を完全に移動しても丸太が完全に割れない場合は、ハンドルを引いて斧を後退させ、ストリッパープレート(斧の両脇の板)に丸太を保持させながら斧を後退させます。これで、斧から動かなくなった丸太が外れます。
9. 斧が格納されている間は、必ず丸太とストリッパープレートに手を触れないでください。

#### ⚠注意

- ◇ つまづきの危険を避けるために、作業場所には常に割れた木やゴミがないようにしてください。
- ◇ 100 ポンド(45kg)以上の丸太についてはログスプリッターを垂直に設置してください。
- ◇ ストロークの最後にバルブを「前進」の位置に保持すると、ポンプを損傷する恐れがあります。
- ◇ 油圧シリンダーの寿命を延ばすために、斧がフットプレートに対して「底付き」しないようにしてください。安全のため斧はフットプレートから最低 1 インチ(2.54cm)の位置で停止します。

### 11-5 ログスプリッターの操作-垂直位置

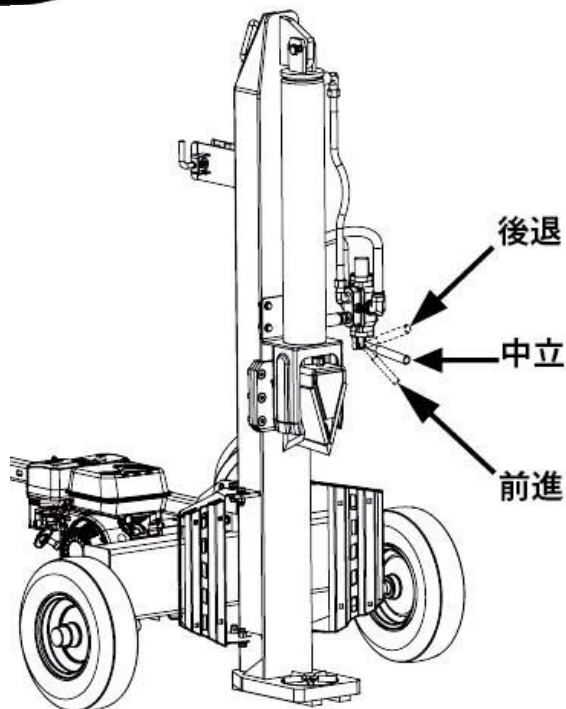
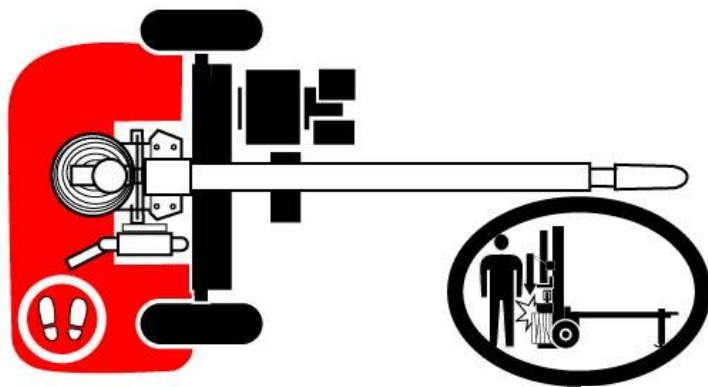
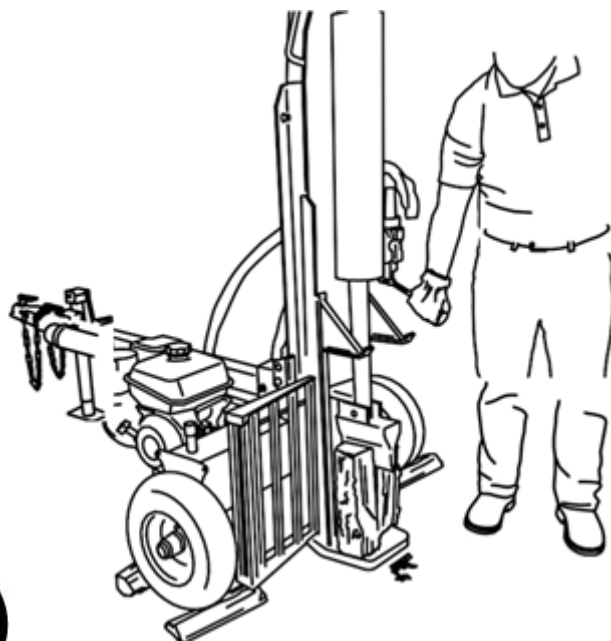
1. エンジンが停止し、斧が収納されていることを確認してください。
2. ビームロックピンを引き、フットプレートが地面にしっかりと固定され、ログスプリッターが安定するまで、ビームをゆっくりと立ち上げます。



3. ビームが垂直になったら、右側にあるビーム垂直ロックをかけて、ビームが倒れないようにします。



4. 丸太を選び、スプリッターのところまで転がしていき、ビームを背にしてフットプレートの上に置きます。大きな丸太の場合は、丸太の下にウッドブロックやくさびなどを置いて、ビームに対してしっかりと固定します。
5. 丸太が固定されたら、図のオペレーターゾーンに立ち、コントロールレバーをフットプレートに向けて(前進)操作します。



**⚠注意**

- ◇ ストロークの最後にバルブを「前進」の位置に保持すると、ポンプを損傷する恐れがあります。
- ◇ 油圧シリンダーの寿命を延ばすために、斧がフットプレートに対して「底付き」しないようにしてください。安全のため斧はフットプレートから最低 1 インチ(2.54cm)の位置で停止します。

## 12 メンテナンス

この章には、オレゴン薪割機の能力を維持し、長期間継続的に使用して頂くためにお客様に行なって頂くメンテナンスについて記してあります。

### ▲警告

- ◇ メンテナンスをするときは必ずエンジンを停止すること。
- ◇ この取扱説明書に記述されていないメンテナンスは販売店に依頼してください。お客様には予期できない危険な状況が起こる可能性があります。
- ◇ この取扱説明書に記述されていないメンテナンス及び部品の交換を販売店以外で行なった場合、保証致しません。また、いかなる損害に対しても責任を負いません。
- ◇ 修理パーツは、純正品をお使いください。

### 12-1 油圧オイルフィルターの交換

初回 25 時間、その後は、100時間もしくは、3ヶ月のどちらか早い方毎に交換してください。

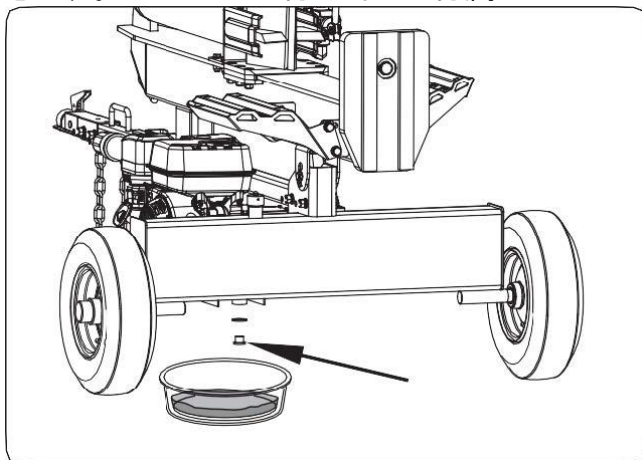
### 12-2 油圧オイルの補充

定期的に油圧オイルの量を点検してください。油圧オイルがレベルゲージにある刻印の OK の間であることを確認し、足りない場合は補充してください。

### 12-3 油圧オイルの交換

油圧オイルが汚れた場合は、油圧オイルを交換してください。

1. 斧が完全に戻っていることを確認してください。
2. 油圧オイルを排出するには、油圧タンク底部にタンク底部のドレンねじを外して油圧オイルを抜きます。ドレンネジの付け外しは付属の 10mm 六角棒スパナで行えます。



3. 油圧オイルが抜けたら、ドレンネジをしっかりと締め付けます。
4. 注油口のキャップを外して、油圧オイルを規定量(約 17 リットル)注入します。油圧オイルの量はオイルゲージを確認しながら給油してください。
5. 注油口にキャップを取り付けます。

### ▲注意

- ◇ 油圧オイルにゴミを混入させないこと。
- ◇ 廃油は、定められた場所に定められた方法で正しく処分すること。



#### 12-4 ブリーザーキャップの清掃

ブリーザーキャップは、25 時間ごとに清掃してください。  
ただし、作業環境が悪い場合は、清掃間隔を短くしてください。  
ブリーザーキャップをタンクから取り外し、洗浄油か、灯油で洗浄します。

#### 12-5 エアクリーナーの清掃

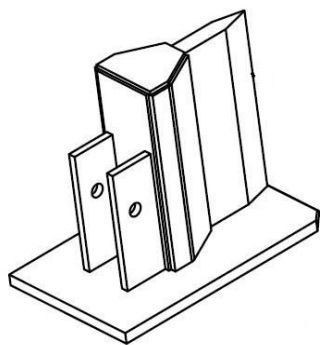
1. エアクリーナーカバーのノブを回し、カバーを外します。
2. エアフィルターの汚れをエアブローなどで吹き飛ばします。
3. 汚れがひどい場合は、エアフィルタ交換が必要になります。
4. エアクリーナーカバーをしっかりと取り付けてください。



#### 12-6 斧の研磨

斧の鋭さは、薪割機の性能に影響します。長期間使用した後は、必要に応じてやすりや砥石で研磨して、バリやカエリを取ってください。  
斧は、シリンダーから取り外して、作業することができます。

1. 斧とシリンダーを止めているネジを外してください。
2. シリンダーを持ち上げておき、斧をスライドさせて取り外します。



#### ▲警告

◇ 斧を研磨する時は必ず保護手袋を着用すること。



## 13 トラブルシューティング

### 13-1 薪が斧から外れないとき

1. コントロールレバーを上方に倒して斧を戻します。
2. クサビ状に割った薪を斧から外れない丸太の下に割りこませます。
3. コントロールレバーを操作して、丸太の下に割り込ませたクサビ状に割った薪で斧から、薪を外します。

丸太の下に割り込ませる薪を徐々に大きなものに変えながら、斧から丸太が外れるまで繰り返します。

#### ▲警告

- ◇ 丸太が斧から外れないときは必ず上記の方法をとり、丸太をハンマー等で叩かないこと。
- ◇ 決して力任せに外さないこと。不意に丸太が外れて身体のバランスを崩してけがをする原因になります。

### 13-2 トラブルシューティング

薪割機を使用する際に起こる不具合およびそれに対処する方法を表に記します。不具合が発生したときは、下表をもとに対処してください。

下記の対処方法で解決できない場合や下記内容以外の不具合が発生した場合は販売店に連絡してください。

不具合内容	原因	対処方法
薪が割れない	薪の置き方が悪い	正しく置き直す。
	薪のサイズが大きいまたは薪割機的能力以上に硬い	他の機械、道具を用いて薪を小さくする。
	斧が鈍い	斧を研ぐ。
	油漏れ	油漏れの個所を特定し、販売店に連絡する。
	圧力が低い	販売店に連絡する。
ロッドが伸びるときに断続的に動く。振動が大きい	エアが混入	油圧オイルの量を確認し、足りない場合は補充する。それでも直らない場合は、販売店に連絡する。
油漏れ	オイルシールが消耗	販売店に連絡する。

—MEMO—



関東支社(機械本部)	〒270-2231	千葉県松戸市稔台 6-7-5	TEL 047-361-4701(代)
北海道営業所	〒047-0032	北海道小樽市稲穂 2-1-1	TEL 0134-24-1313(代)
東北営業所	〒963-0547	福島県郡山市喜久田町卸 1-37-1	TEL 024-959-6212(代)
東京営業所	〒270-2231	千葉県松戸市稔台 6-7-5	TEL 047-361-6831(代)
西日本支店	〒520-2134	滋賀県大津市瀬田 5-22-26	TEL 077(500)3380(代)
福岡営業所	〒813-0062	福岡市東区松島 6-4-17	TEL 092-611-1988(代)